

第30回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成16年2月18日(水) 16時～

2 場 所 親和館 2階 中教室

3 内 容

(1) 学長から挨拶と情報提供(16:00～16:30)

① 2004年度入学試験(A・S・C日程)の結果

並びに後期(B)日程の実施について [資料1](#)

② 法科大学院A日程入学試験の結果並びにB日程入学試験の実施について [資料2](#)

③ 社団法人日本物流団体連合会寄附講座

「ビジネス特殊研究(流通の変革)」の開講について [資料3](#)

④ 自己点検・評価委員会主催

「ディスカッション 大学改革の時代」の開催について [資料4](#)

⑤ 法工連携公開講演会「知財・ベンチャーセミナー」の開催について [資料5](#)

⑥ 特別公開講座「関西中小企業の活性化と経営革新セミナー」の開催について [資料6](#)

⑦ 経済・政治研究所第163回産業セミナーの開催について [資料7](#)

⑧ 重点領域研究成果公开发表会

「新しい時代の大学教育—新たな公共空間をどうひらくか」の開催について [資料8](#)

⑨ 文学部プレ・ステューデント・プログラムについて [資料9](#)

⑩ 平成15年度卒業式及び平成16年度入学式の挙行について

⑪ 河田悌一学長の社団法人日本私立大学連盟常務理事就任について [資料10](#)

⑫ 河田悌一学長の大学コンソーシアム大阪理事及び

大学間連携専門部会長の就任について [資料11](#)

(2) 質疑応答(16:30～16:40)

(3) 研究発表(16:40～17:20)

・ 藪田 貫 文学部教授

発表テーマ「蘇える長崎唐人屋敷—『長崎唐館図集成』刊行によせて—」 [資料12](#)

・ 河原秀久 工学部助教授

発表テーマ「蕎麦殻抽出物中の α -アミラーゼ阻害剤(抗糖尿病予防剤)」 [資料13](#)

(4) 質疑応答(17:20～17:40)

4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 斉副学長、品川哲彦学長補佐、藪田 貫文学部教授、河原秀久工学部助教授、中尾正司企画室長、藤本清高広報課長

5 参考資料

(1) 平成14年度学生生活実態調査報告書

(2) 関西大学FDフォーラムVol.6

(3) 平成15年度インターンシップ報告書

(4) インターンシッププログラム2004

(5) 井上 宏著『大阪の文化と笑い』(関西大学出版部)

以 上

蘇える長崎唐人屋敷ー『長崎唐館図集成』刊行によせてー

文学部教授 藪田 貫

長崎は江戸時代、鎖国に開かれた唯一の窓として知られている。その象徴が、現在も復元工事の続くオランダ商館跡出島である。出島に隣接して、いまは中華街で賑わう新地があるが、それはもともと新地蔵という中国商船の積荷の保管庫で、さらに内陸部に入ると館内町の区画に入る。かつて長崎唐館（唐人屋敷ともいう）のあった場所であるが、民家が立ち並び、わずかに天后堂・土神堂・観音堂といった宗教施設が残されているだけで、旅行者の姿を見かけることは稀である。

この館内町こそ、長崎唐館の区域であり、最盛期、4800人の中国人が住んだ「唐人町」であった。この唐館を描いたものが唐館図で、出島を描いた蘭館図とともに何度か作成されている。本『集成』は、国内外に所蔵された唐館図29点を収めているが、絵巻仕立ての図巻をひも解くと、空中から中国人の生活と貿易の様子が覗き見できる。

いまではすっかり忘れられた長崎唐人屋敷が、本『集成』によって蘇えってくる。



やぶた 貫
藪田 貫

教授

1948年大阪府の生まれ。京都橘女子大学をへて90年より本学に着任。専攻は江戸時代（近世）の社会史・女性史。著書として『国訴と百姓一揆の研究』（1992）、『女性史としての近世』（1996）、『男と女の近世史』（1998）がある。また『寛政12年遠州漂着唐船萬勝号資料』（関西大学出版部、1997）、『天保上知令騒動記』（1998）の編纂書も近年の成果である。

94年に開設された文学部古文書室の責任者で、丹波の大地主園田家文書の整理に院生と取り組まれ、最近その目録（一部）が完成した。学生とはゼミでよく飛鳥文化研究所に出かけ、大学院生とは「セロリの会」という風変わりな名前の研究会を主催されている。

趣味は音楽（クラシック・フォークソング）とジョギング。近年は学会などで海外によく出かけられる。95年11月よりヒゲを蓄えて「ヒゲのヤブタ」となられた。

蕎麦殻抽出物中の α -アミラーゼ阻害剤（抗糖尿病予防剤）

工学部助教授 河原 秀久

平成 15 年から 5 年間の計画で認可された文部科学省「私立大学産学連携研究推進事業」における「食品製造工程から生じる廃棄物の有価物質への転換再生技術」、別名食品産廃棄物ユニットの研究の一環として、蕎麦殻抽出物に α -アミラーゼなどデンプン分解酵素の阻害活性があることを発見した。この活性は、ヤクルト社の蕃爽麗茶に入っているグアバ葉エキス（ポリフェノール）よりも約 10 倍の活性であった。廃棄物になっている原料から安価に製造でき、高活性であるから実用化が期待できる。すでに、大学より特許を出願済みであり、今後は工業化に向けた取り込みを行う予定である。このような機能は食品加工廃棄物には多く存在し、他の機能性も期待できる。

なお、この内容に関しては、3 月 28 日から開催される日本農芸化学会大会（広島）にて発表する予定である。



かわはら ひでひさ
河原 秀久
助教授

1991年岡山大学大学院自然科学研究科修了と同時に本学助手に就任。小幡教授と共に氷核活性細菌の生理学的研究（氷核活性細菌の凍結耐性、菌体外氷核活性物質の分泌機構の解析）とその応用研究に取り組むとともに産業廃棄物のリサイクル・リユースのために、農産加工品の副産物である不溶性タンパク質（例、ダイズタンパク質など）及び工業廃棄物（例、醤油類など）における微生物機能を利用した有効利用系について多くの企業とともに重点的に共同研究している。97年助教授に昇格。その後、新たに微生物や他の生物種由来の不凍タンパク質についても積極的にスクリーニングを行い、そのタンパク質について重点的に研究されている。この技術シーズを基本にして、不凍タンパク質応用開発研究会を立ち上げ、多くの企業と共同研究を行っている。98年度在外研究員として1年間カナダオンタリオ州ウォータールー大学に留学され、現在新たな研究分野として微生物資材の分野にも取り組んでいる。